

公安委員会 説明資料No. 1	県政モニターアンケート「治安に対する意識調査」の実施結果について	令和4年10月6日 警務部
--------------------	----------------------------------	------------------

**報告事項**

**令和4年7月に実施した県政モニターアンケート「治安に対する意識調査」の結果について報告する。**

**1 目的**

治安に対する県民の意識を調査・把握することにより、今後の県警察における各種施策を効果的に推進するため

**2 アンケート実施時期**

令和4年7月5日～同月18日

**3 県政モニターアンケート対象者**

318人（「治安に対する意識調査」の回答者 274人 回答率 86.2%）

**4 質問項目**

(1) 基本項目（21問）

県民の体感治安の変化や要望等を経年的に把握するため、毎年同じ質問項目で実施するもの

(2) 随時項目（7問）

単年でその年のタイムリーな事項について実施するもの

ア サイバー犯罪について（3問）

イ 移動交番について（4問）

**5 集計結果**

※ アンケートのテーマである治安に対する意識調査の中で、特に注目すべき項目を抜粋

(1) ここ1年間で、自分や身近な人が犯罪の被害に遭うかもしれないと不安になることが多くなりましたか、それとも少なくなりましたか。

- ・ 「どちらともいえない（変わらない）」（49.6%）が最も多く選ばれた。

(2) あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安に感じるのはどのような犯罪ですか。

- ・ 「インターネットを利用した犯罪」（65.0%）が最も多く、次いで「「あおり運転」などの妨害行為によるトラブル、犯罪」（62.8%）、「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」（60.2%）が選ばれた。

(3) あなたが、警察業務の中で、現状ではもの足りない、今後特に力を入れてほしいと思う活動は何ですか。

- ・ 「犯罪の検挙（犯人の逮捕など）」（42.3%）が例年最も多く、次いで「パトカーや制服警察官によるパトロール」（40.9%）が選ばれた。
- ・ 令和元年以降、「犯罪の検挙（犯人の逮捕など）」、「交通違反の取締りや交通安全指導」及び「パトカーや制服警察官によるパトロール」の項目については常に上位3位を占めている。

(4) サイバー犯罪の被害やインターネット上のトラブルを防ぐために、犯罪検挙以外で警察にどのような対策に力を入れて欲しいですか。

- ・ 「最新のサイバー犯罪手口などの情報提供」（52.2%）が最も多く、次いで「警察によるサイバーパトロール」（46.4%）が選ばれた。

報告事項

11月2日(水)、香川県庁ホールにおいて警察協会及び消防協会の共催による令和4年度警察・消防殉職者協力殉難者合同慰霊祭を開催する。

1 開催日時

令和4年11月2日(水) 午前10時30分から ※ おおむね1時間

2 開催場所

香川県庁ホール

3 主催

(一財)香川県警察協会・(公財)香川県消防協会

4 殉職者

警察殉職者30柱、消防殉職者35柱

5 殉難者

警察協力殉難者2柱

6 式次第

- (1) 開式のことば
- (2) 奉祀者名簿奉納 儀仗隊
- (3) 黙とう
- (4) 式辞 香川県警察協会会長(警察本部長)  
香川県消防協会会長(坂出市消防団長)
- (5) 追悼のことば 知事、県議会議長、公安委員会委員長
- (6) 献花 主催者、遺族、来賓、警察・消防関係者
- (7) 遺族代表謝辞 消防殉職者遺族
- (8) 閉式のことば

7 参列予定者(約100人)

- (1) 遺族(約18人)  
警察殉職者遺族、消防殉職者遺族
- (2) 来賓(約10人)  
知事、県議会議長、公安委員会委員長等
- (3) 警察関係者(61人)  
警察協会会長、部長等、統括参事官、参事官等、初任科生、各地区警友会会長等
- (4) 消防関係者(約10人)  
消防協会会長、消防長会代表、市町消防団長代表、消防学校長等

8 平成元年以降の殉職者・殉難者

発 生 年 月 日	概 要
平成 6. 4. 19	火災出動中の交通事故による殉職(消防)
平成 8. 1. 31	精勤過労による殉職(警察)
平成 10. 11. 9	精勤過労による殉職(警察)
平成 11. 2. 25	交通事故被害者を救助中殉難(警察)

9 新型コロナウイルス感染症対策

- (1) 3密回避(参列者の制限、座席間隔の確保、換気)～各所属への映像配信を予定
- (2) 受付時の体調確認・手指消毒、式典中のマスク着用

**報告事項**

**令和4年8月に実施した県政モニターアンケート「特殊詐欺について」の結果について報告する。**

**1 目的**

全国的に特殊詐欺の被害が依然として高水準で発生していることから、今後の特殊詐欺における被害防止対策の参考とするもの

**2 アンケート実施時期**

令和4年8月2日から同月15日までの間

**3 県政モニターアンケート対象者**

318人（「特殊詐欺について」の回答者270人 回答率84.9%）

**4 質問事項**

特殊詐欺に関して、手口等の理解度、被害防止対策の有無、情報収集の手段、県警察の事業に対する認知度等

**5 集計結果**

(1) 特殊詐欺の手口等の理解度（複数回答可）

- ・ 「オレオレ詐欺」、「預貯金詐欺」、「架空料金請求詐欺」及び「還付金詐欺」の認知度が、2年連続で約90%と高い。

(2) 特殊詐欺の被害に関する意識

- ・ 「自分は被害に遭わないと思う」又は「どちらかと言えば自分は被害に遭わないと思う。」と回答した人の割合が約55%と、2年連続で過半数となっている。

(3) 特殊詐欺に関する情報源、及び情報提供を希望する手段や機会（複数回答可）

- ・ 情報源としては、過去5年にわたり、「テレビ」と回答した人の割合が90%以上と最も多く、以下、「新聞」「自治体などの広報紙」の順である。
- ・ 情報源として「ソーシャルメディア（ユーチューブ、ツイッターなど）」と回答した人の割合が、過去5年で最も多く、昨年と比較して8.9ポイント増加している。
- ・ 情報提供を希望する手段や機会についても、「テレビ」と回答した人の割合が2年連続で90%以上と最も多く、以下、「新聞」、「自治体等の広報紙」の順である。

(4) 高齢者の特殊詐欺被害防止対策（複数回答可）

- ・ 「子や孫世代からの注意喚起」と回答した人の割合が約60%と最も多く、次いで「自宅の電話機に録音装置などの防犯機器の設置や留守番電話の設定」となっており、昨年と順位が逆転した。
- ・ 「金融機関職員やコンビニエンス店員による声掛け」と回答した人の割合が、2年連続で約40%となっている。

(5) 金融機関職員等による声掛けについて

- ・ 「効果があると思う・継続すべきだと思う」と答えた人の割合が、2年連続で85%を超えている。

**6 今後の対策**

- ・ テレビ、新聞、ソーシャルメディア等を活用した広報啓発効果の高い情報発信
- ・ 金融機関職員やコンビニエンスストア店員等による声掛け等による水際対策の推進

**報告事項**

秋の全国交通安全運動期間中の交通事故発生状況は、夕暮れ時の警戒活動や各種広報・啓発活動を推進した結果、前年と比べて死者数は同数であったものの、発生件数、負傷者数は減少した。同運動期間中の発生件数は、運動期間が現在の9月21日からの10日間となった昭和51年以降で最も少なく、負傷者数は初の100人以下となった。

1 期間

令和4年9月21日（水）から同月30日（金）までの10日間

2 交通事故発生状況（概数）

区 分	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	増減	増減率(%)
発生件数(件)	142	115	109	97	84	-13	-13.4
死者数(人)	0	3	1	1	1	0	0.0
負傷者数(人)	161	137	137	119	92	-27	-22.7

3 交通死亡事故発生状況

発生日時	発生場所	路線	事故形態	死者数
9/29(木)5:09 ころ	高松市上之町	市道	中型貨物車と歩行者の衝突事故	1人

4 交通指導取締り状況

(1) 交通違反検挙状況

( ) 内は前年対比

区分	三 悪			交差点関連			その他	合 計
	無免許	飲酒	最高速度※	信号	歩行者妨害	一時停止		
件数	6 (1)	5 (4)	35 (±0)	178 (14)	113 (-117)	957 (-278)	1,718 (-263)	3,012 (-639)

※最高速度については著しい速度違反

○ 逮捕人員：3人

(2) 自転車の検挙状況等

○ 検挙件数：2件

○ 指導・警告件数：410件

(3) 特別取締り

○ 全国一斉自転車取締り（9/20）

○ 全国一斉通学路取締り（9/30）

5 主な取組（新規）

(1) 9/22 高松工芸高校自転車部との交通安全キャンペーン

[高松北警察署]

(2) 9/25 少林寺拳士との交通キャンペーン

[丸亀警察署]

(3) 9/25 地元サッカーチームとの交通キャンペーン

[丸亀警察署]